



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和6年(2024年)
3月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

集う

校長 垣内 幸太

早いもので学校だよりも今年度最終号となりました。3月18日には、149期生である6年生89名がこの箕面小学校を巣立っていきます。今年度の卒業式は保護者の方の人数制限がなくなり、来賓の方もお招きして、子どもたちの晴れ姿を皆でお祝いできることを嬉しく思います。

さて、先日、地域の方が学校を訪れてくださいました。箕面小学校、昭和29年の卒業生の方でした。いまなお毎年集い、同窓会を開かれており、当時の6年生の担任の先生も100歳を迎える頃まで、お越しになっていたそうです。その方々を代表して150周年記念の募金を届けてくださいました。大先輩方のお心遣いに感謝するとともに、素敵につながりにたいへん感動させていただきました。

私事にはなりますが、先日中学時代の部活動の恩師、また当時の仲間と集う機会がありました。先生はすっかり年をとられ、怖かった当時の迫力はありません。また友人たちもすっかりいいおじさんです。しかし、いくつになっても怖いけど頼りになった先生には頭が上がりません。話し始めると私たち同級生の関係も当時のままです。過ごしてきた時間や場所は異なりますが、昔話に花を咲かせながら、互いの近況や苦労話などを聞くと、自分もまだまだ頑張らねばと元気をもらいます。

いま、学校の存在意義が問われています。ネット上では学校不要論という言葉も目にするほどです。しかし、学校という場で「ともに」学んだ時間、過ごした時間、AIや一人では得ることのできない経験は、社会の中で生きていくうえで、決して小さくない力をもたらしてくれます。

巣立っていく6年生も、きっといろいろなことがあったでしょう。楽しい学びや経験のみではなく、ひょっとしたら、辛いことやしんどいこともあったかもしれません。それらの一つ一つが人生における貴重な経験であるとともに、こうして同じ学校、同じ教室で偶然出会った人たちや経験したことは生涯に渡って、子どもたちの生きる糧になってくれたらと願います。これからもこの箕面小学校が、一人ひとり子どもたちにとって、何年経っても思い起こされる学び舎となれるように、わたしたちは努力を重ねてまいります。

来年度の150周年も「集う」がテーマです。10月12日には、「ともに」学んだ箕面っ子、先輩箕面っ子、それらを支えてくださった人々がここに集い、昔を懐かしみ、元気を分け合い、いまを生きる力になれるような一日にすべく準備を進めています。楽しみにお待ちください。

最後になりましたが、箕面小学校がこうして1年を終えることができるのも、保護者の皆様、地域の皆様の多大なる支えがあってのことです。心より感謝申し上げます。少し早いですが、この1年間のご支援、ご協力ありがとうございました。